

心豊かな「すてきさん」づくり ～ えがお ・ げんき ・ あいさつ ～
かながえ、やってみる子 いたわり、助け合う子 せいいっぱいがんばる子 いきいきと元気な子



年少児が大事に育てている
チューリップの花

開成町立開成幼稚園

たいよう通信

第11号

発行日：令和7年3月25日（火）

発行者：園長 杉山 孝史

皆さまに感謝

3月14日（金）、春を感じさせる陽気の中、第55回卒園式をどんぐり会館で開催しました。来賓や保護者、年中児や職員、また園庭で見送った年少児の祝福をいっぱい受けて、年長児は新しい世界へと力強く巣立っていきました。ご卒園おめでとうございます。これからも「えがお」「げんき」「あいさつ」を大切に、4月からの小学校生活を思い切り楽しんでほしいと思います。

さて、本日3月25日（火）、令和6年度の園生活を締めくくる修了式を行いました。式の中で、年中と年少の代表の子が、一年間の楽しかった思い出や次の学年で頑張ることなどを皆の前で発表しました。「年長になったら、サッカーをしたいです。チームを作りたいので一緒にやりましょう。」「運動公園でおいかけっこをしたのが楽しかったです。」「年長になったらダンボールで大きなものが作りたいです。」また、「ウルトラマンのショーをしたのが楽しかった。」と話した年少児は、最後に仮面ライダーのポーズを決めてくれました。どの子の言葉にも、一年間の園生活が楽しく充実していたこと、そして4月から始まる新しい生活への期待感をたくさん感じ取ることができました。

今年度も、保護者や地域、学校運営協議会やボランティアの皆さまに大変お世話になりました。ありがとうございました。皆さまのお力添えにより、子どもたちの笑顔が輝く一年間になりました。次年度も、職員一丸となって、全力で保育・教育活動に取り組んでまいります。引き続き、本園への皆さまのご支援とご協力をお願いいたします。

春休みの約束

修了式の中で、タヌキのボン吉と春休みの約束をしました。家庭でも話題にいただけると嬉しいです。



- ① 早寝・早起きを心がけよう。自分でできることは自分でしょう。
- ② 外から帰ったらうがい・手洗い、気持ちのよいあいさつをしよう。
- ③ 天気の良い日は外で遊ぼう。誘拐・交通事故には十分に気をつけよう。

さようならお元気で



令和7年3月末で4名の職員が開成幼稚園を離職されます。慣れ親しんだ皆さまとお別れするのはとてもつらくて寂しいですが、今後のご健康とご活躍をお祈りしたいと思います。これまでのご功績に感謝いたします。ありがとうございました。

I 先生（教諭）から

私の幼い時の夢が、幼稚園の先生になることでした。開成幼稚園での時間は、子どもたちの成長を見守り、共に考え笑って生活をした日々でした。皆さんの笑顔や元気な姿が私の宝物になりました。皆さんも夢を大きく持って、一歩ずつ自分のペースで進んでいてください。心から応援しています。

O さん（用務員）から

「おはようございます」「いつもきれいにしてもらいありがとうございます」朝からそんな挨拶をいただくと私もやる気が沸いて、一日を元気に過ごすことができました。この度任期満了で仕事を離れますが、これからは外から応援しています。大変お世話になりました。では、お元気で

Y 先生（栄養士）から

一年間という短い間でしたが、大変お世話になりました。「給食おいしいよ」「どうやって作ったの?」「苦手な食べ物にも挑戦したよ」など、子どもたちから声をかけてもらえたのが嬉しくありがたかったです。「食」の面での成長を近くで見守る中で、自分にとっても学びの多い一年になりました。ありがとうございました。

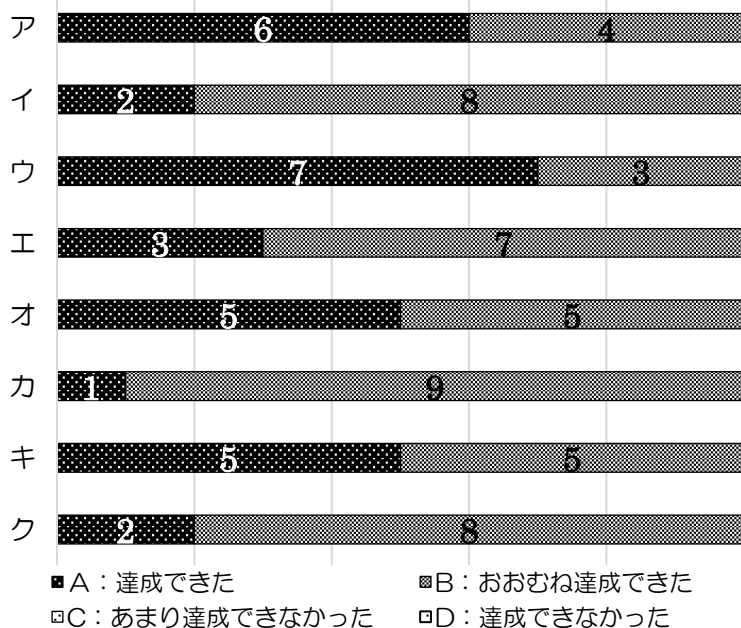
※米村栄養士さんは4月から給食調理員さんとして引き続き開成幼稚園に勤務されます。

H 先生（生活支援補助員）から

先生はみんなの笑顔が大好きです。「おはよう」のあいさつの声を聞くと、元気をもらいパワーがきます。遊んでいるときのキラキラとした目が好きです。泣いたり笑ったり、時にはけんかもして…そんな時間を一緒に過ごせた思い出は、先生の宝物になりました。みんなのことを忘れません。ありがとうございました。

保育を振り返って ～R6年度自己評価結果～

教師の構え・指導の重点に関する評価（人）



＜項目内容＞

- ア 喜怒哀楽などの表情（表現力）豊かな教師となるよう努めた。
- イ 自らの保育を振り返り、成果と課題を明らかにし次に生かした。
- ウ 挨拶や感謝の気持ちを伝えるなど、子ども、保護者や地域の方、職員とのコミュニケーションを大切にしました。
- エ 子どもの実態を把握し、保育に見通しを持って課題解決に努めた。
- オ 子どもの内面を理解し、寄り添い、信頼関係を築くように努めた。
- カ 園内外の環境整備や美化に努め、子どもが落ち着いて生活できるようにした。
- キ 温かみを感じ、安心して楽しく生活できる保育環境づくりに努めた。
- ク 自らの長所や特技を生かし、子どもの遊びが広がったり深まったりするような環境作りや援助の工夫に努めた。

開成幼稚園では、より良い教師を目指して普段から研究や研修に前向きに取り組んでいます。その一つとして、年度初めに教員一人一人が自らの目標を立て、年度中盤と年度末に目標の達成度を自己評価し、指導の改善に生かしています。

このグラフは、今年度末の2月に実施した評価結果の一部になります。評価者は全学級担任、教頭及び園務主任の10名で、各項目ごとにA～Dまでの4段階で評価しました。

今年度の結果ですが、すべての項目ともA「達成できた」、B「おおむね達成できた」の良い評価がついています。中でも、ウ「コミュニケーションを大切にしました」については、最も良い結果になりました。一方で、カ「環境整備や美化」については、達成度が他と比べて低くなっています。今回の評価結果や過日ご協力いただいた保護者アンケート、学校運営協議会でいただいたご意見などをもとに、引き続き保育環境の充実を目指してまいります。

ひだまり

続・ウサギとカメ



▼「もしもしカメよカメさんよ」のフレーズで親しまれているイソップ寓話「ウサギとカメ」。

3学期の始業式で、この曲と一緒に物語のあらすじを子どもたちに紹介しました。▼実は、この話には続きがあります。

3月14日の卒園式でそのことを切り出すと、会場から「えー」という驚きの反応が返ってきました。その続きとは・・・ここに負けたウサギさんは、くやしなくてくやしくて仕方ありません。日増しにくやしさが大きくなるばかりです。そこで、カメさんに思い切って頼むことにしました。「かめさん、お願いだよ。明日、もう一度かけっこをしようよ。」「いいよ、ウサギさん。この間と同じ場所だね。」さて、かけっこに勝ったのは、ウサギさんとカメさんのどちらだと思えますか。

見事勝ったのは、ウサギさんでした。前回の失敗に懲りて、ウサギさんは途中で休むことなく一気にゴールしたのでした。「どうだいカメさん、ぼくが本気を出せばこんなもんさ。」「ウサギさん、やっぱり君は足が速いよ。」「カメさん、君は負けて悔しくないのかい?」「ああ、だって、かけっこでウサギさんに勝てるなんて初めから思っていないさ。ぼくは、この間より速くゴールできたことが嬉しいのさ。」同じ失敗を繰り返さなかったウサギさんも立派ですが、他との競争ではなく、自分のタイムを縮めることを目標にしたカメさんも立派でした。最後に、二人は笑顔で握手をしました。めでたし、めでたし。▼ついつい私たち大人は、他の子と比べて、ここが優れている、あそこが劣っていると判断しがちです。でも、それぞれの子を見つめると、その子にしかない個性や良さに気づきます。それらを見つけ、認め、励まし、育てていくことのできる大人でありたいと思っています。